

1、園の教育目標

『三つ子の魂百まで』『人を育てるのは人』を基本姿勢に、恵まれた教育環境の中で、子どもたちのすぐれた小さな成長の芽を早く見逃さずに伸ばし、才能を磨き、豊かな心、意欲、態度を培う。	
教育目標	「明るく、たくましく、辛抱強い子どもを育てる」 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てる 他人を思いやる心を育てる ありがとうと言える素直な心や、感謝の心を育てる 豊かな精神と丈夫な身体を育てる 基本的な生活習慣を身につける

2、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
教職員と子どもたちや保護者とのかかわり	◎園の様子を保護者や地域への発信 ・子どもたちの様子をInstagramで毎日更新。また、行事の様子などは、動画を含めて公開している。 ・未就園児を対象に、園庭開放を年数回開催する。未就園児及び保護者に、園への理解を深めてもらう。 ・保護者へは、毎月『園だより(菜の花だより)』を発行し、園での様子・行事などを伝えている。 ・年数回、保護者と面談し、子どもの園での様子などを話す。また、随時、保護者より子どもについての悩みなどがあれば、担当教員と共に課題を共有し、解決していく。場合によっては、キンダーカウンセラー・区の福祉課職員も入り、良い方向に導き解決するように試みる。
子どもたちにコミュニケーション力を身につけさせ実践させる。	◎挨拶が自然とできる ・子ども自ら挨拶ができるように、みんなで挨拶することを実践。子どもたちからの挨拶が増えてきた。 ◎相手に対する対応 ・友達の話を聞いて、お互いの考えを発信し、考える。 ・お互いを思いやる気持ちを持つように導いていく。 ◎考える ・コミュニケーション力を育むために、自ら考え、発信する習慣を身につけさせる。
教育内容の充実	◎ボランティア活動への入り口 ・毎週金曜日に園外清掃活動を実施。 ◎食育の実践 ・6月に稲苗を植え、10月に稲刈りをする。自分たちで育てた、米でおにぎりを食べることにより、食に関する興味を培う。 ・11月頃には、『みかん狩り』に行く。みかんが、スーパーで並んでいるのではなく、実際の様になっているかを理解することができる。 ◎毎朝の体操朝礼の実施 ◎運動会の練習を通じて集団行動を実践 ◎お遊戯会で、一つの作品(劇・ミュージカル)をみんなで一緒に作っていく過程で発生する問題点など教員と一緒に解決し、作品を完成させる。保護者に披露する際に、子どもたちの達成感・充実感また、やれば出来ることで園児ひとりひとりが自覚を持つことができる。 ◎『菜の花ボード』を設置 ・園の外壁に、こどもたちの製作物を展示する『菜の花ボード』を設置。自分たちの作品が、展示されることにより、更に子どもたちが、製作意欲を高めることができる。
子どもの体力づくり	◎毎朝の体操朝礼や縄跳びカードで個人の上達確認などをして、身体を動かす楽しさや充実感を味わえるようにする。また、集中力を身につける指導を心がける。 ◎各学年、年間25回(40分)程度の体操を組み入れている。マット・跳び箱・鉄棒などをし、バランス感覚の育成を目指す。また、年間10回(40分)のプール授業も取り入れ、水に慣れること実践している。
防犯対策	◎警備体制の充実 ・子どもたちの安全面を確保するために、登園時・降園時に通園門にて2名体制で見守る。 ・園児や職員を対象に住吉警察による『防犯教室』を実施する。 ・園周辺で不審なことが発生すれば、保護者へメールで警戒を促す通知と警察へのパトロールをお願いする。 ・正門・通園門に防犯カメラを設置することにより、不審者等への立ち入りを監視する。 ・防犯とは直接関係ないが、毎月、地震・火災・津波の発生を前提にした、避難訓練を実施している。
送迎バス安全管理	◎送迎バスの運行における安全管理については、マニュアルを見直し、ドライバー、添乗員、担任、管理職で二重、三重でチェック項目を設け、同時にコミュニケーションを大事にしてヒューマンエラーを防止する。更に、車内に『園児置き去り防止装置』を備え付けることにより、一層置き去り事故を防止することができた。 ◎遠足や特別保育でバス利用する際も同様に安全管理に努める。

3、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・大きな行事ともいえる運動会やお遊戯会、造形展(作品展)も参加できる人数の制限をなくし、保護者にも喜んでもらえることができた。それと合わせて、子どもたちが大勢の方に見てもらえることにより、褒めてもらえる機会も増え自信をもつ子どもたちが増えてきた。 ・稲の苗植え、園外での清掃活動、菜の花ホードの設置など、成果が目に見えやすい保育に取り組み、子どもたちの『できる』を増やすことができた。 ・縄跳びで体力づくりとして、園児がカードに記録をつけることにより、楽しみながら、目標を達成する喜びを持たせることができた。
--

4、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教職員と子どもたちや保護者とのかかわり	◎園行事の充実。 ・令和7年度より園児募集を停止しており、園児数が少なくなったが、保護者と一緒に充実した行事などの実践。 ◎園児の見守り ・保護者、担当教員が、共に園児を見守り、些細な変化などの注意深く観察し、問題があれば保護者と協力しながら是正していく。 ◎寄り添う ・子ども一人一人の置かれている環境を把握しながら、寄り添って子どもたちに安心感を与えていく。そのために保護者とのコミュニケーションも密にしておくのが大事。
子どもたちにコミュニケーション力を身につけさせ実践させる。	◎令和6年度の『2. 評価項目の達成及び取り組み状況』で述べていることを再度、実践していきたい。少しでも、令和6年度より進歩していきたい。
安全管理	◎バスの安全管理だけでなく、保育中の子どもたちの安全管理にもしっかりと取り組んでいく。 そして、子どもの安全管理を最優先する。 ◎子どもたちと正しく防災・防犯に対する知識や行動を定期的の実施し、身に着けるようにしていきたい。
健康管理	◎教職員および園児たちの健康管理 ・自分自身の健康管理を含め、感染防止対策を徹底する。みんなが安心して保育できる環境づくりに努める。 ◎熱中症予防のために、熱中症指数の計測やその状況に合わせた行動基準をもって、子どもたちが健康に安心して活動できる環境をつくる。 ◎感染症への徹底情報共有 ・園児が感染症に罹患した際、教職員全員が情報を共有し、園での感染を広げないように徹底する。

5、財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。
